

# ぎずな



蓮田・白岡地方ユネスコ協会

## 創立10周年記念講演会兼

### 第11回 国際文化スタデー

## 朝鮮半島情勢を読む

講師 武貞秀士氏



講演は12月17日午後2時から白岡市の「はびすしらおか」で開催されました。講師は朝鮮半島問題研究の第一人者で拓殖大学大学院特任教授の武貞秀士氏。当日は好天にも恵まれ、中野和信蓮田市長、西山通夫同教育長ほか、約90名の聴衆が集まり「朝鮮半島情勢を読む」という喫緊のテーマに聞き入りました。武貞

氏は、北朝鮮は金正恩が取り仕切る独裁国家であり、その行動は我々には理解しがたいが、儒教思想が残っていて、①外部の人との会話の際も、自分の身内を呼ぶ際にも敬称を使用すること、②人々の生活は貧しいが指導者の責任を追究することもなく他の社会主義国とは異なると指摘。米国等が課する石油の禁輸等の措置もその経済規模が小さいため生きながらえている。同氏によれば北朝鮮と韓国との経済規模は北を一にした場合、韓国は一二〇に相当するといふ。また、ロシアや中国は北の崩壊を望んでおらず、経済制裁は抜け穴が存在するとのこと。さら



に、危惧される米による先制攻撃についても、「北のミサイル技術が相当進歩しており、韓国や日本などの同盟国への反撃による甚大な被害を考慮すれば、この選択肢はないのではないか」という。ここに來ての、テイラーソン國務長官による「前提条件なしに對話のテーブルに就くことも可」とする発言もあり、双方共に阿吽の呼吸を探っているのではないかと推測される。今までは「制裁と圧力」で日本は米国と歩調を合わせていたが、今後は「抑止と對話」を軸として外交を進めることを武貞氏は主張する。同氏によれば、金正恩の母は大阪市生野区の生まれであり、金日成、金正日、金正恩と三代続いた体制には日本統治時代の「記

憶」があり、寅さんのビデオを見るといふ。日朝関係が今後どのような進展するかは予断を許さないが、願わくは一日も早く緊張が緩和され、正常な2国間関係が確立されることを祈るばかりである。2時間にわたる講演であったが参加者一同一言も漏らさず講師の興味深い話に聞き入っていた。尚、印象に残った言葉は、講話の中で、国際情勢を読み解くには「4つの目」を持つて対処する事が大事と云う非常に含蓄のあるお話を伺った。即ち、鳥の目・魚の目・蝙蝠の目・虫の目と云う各々の立ち位置・観点から物事を見る事が大事であると云う・・・。

今回は、質疑応答も盛んで、講演終了後も残って講師と遣り取りする人が引きも切らず、参加者アンケートには「新聞・テレビ報道以外のことが学べた」「大変タイムリな企画」「北朝鮮の生の状況を理解できた」等のご意見を多数戴きました。



創立10周年(次年度)  
関東ブロック・ユネスコ活動研究会・開催に向けて  
会長 田村勝彦

会員皆様、日頃のご支援・ご協力を心から感謝申しあげます。お陰様で来年は当協会・創立10周年記念の年を迎えます。既に記念事業の一環で武貞秀士先生を迎え講演会を開催致しました。私達が現在、国際理解する際に、一番知り、向合わなければならぬ東アジア情勢を学ぶ機会と致しました。ユネスコ憲章・理念を地域で具現化するには何が相応しいか、・・・などいつも議論しながら地域文化の向上と云う使命・ミッションを愚直に掲げて活動してまいりました。国際文化スタデー・地域文化遺産スタデーと題して世界を知り・我が町を知る・・・次世代に「平和希求の文化」を継承する使命を実現したい・内向きな風潮だからこそ一石を投じたい・と真剣に感じる此の頃であります。また、二〇一九年に新天皇が即位されますがその記念の年、10月に、一都5県数百名の皆様を迎えて当地で関東ブロック・ユネスコ活動研究会を開催致します。主管協会として既に準備委員会を発足させていますが、友邦協会のご支援はもとより、蓮田・白岡の多くの分野の皆様のご理解を得、ご協力を戴こうと懸命に準備中でございます。いわば活動の集大成の年・ユネスコ・ボランティアも募集したいと思います。皆様のご支援が維持は、皆様のお支えがあればこそ持続可能です。来年度も引続きお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝・ご多幸をお祈り申し上げます。

# 青少年育成・ユネスコスクール 支援事業(蓮中・中央小に講演)

## 【半生を国際協力に生きて】

### 市立蓮田中学校



#### 講師 石崎光夫氏

11月17日(金)、市立蓮田中学校において全校生・教師・PTA・当協会員約五百名を対象に「キャリア教育ふれあい講演会を開催。講師は京都在住・当協会員、石崎光夫氏・元JICA東京国際研修センター所長)を招き、「開発途上国の人づくり支援三十年を顧みて」と題してお話戴きました。講演冒頭で「JICAのホームページなどでは触れられることのない、本音ベースの話をしたい」と断ったうえで、かつて日本も「援助受取国」であった事実を披露しつつ、「援助を受ける側」の立場や心情などに想いを馳せつつ事業を行うことの大切さを学



### 市立蓮田中央小学校



11月20日(月)蓮田中央小学校において、総勢約三百名を対象に「開発途上国のことをもっと知ろう(JICAの仕事をしてみて今思う事)」と題して石崎光夫さんに講話をお願い致しました。体育館に四・五・六年生、先生・PTA・当協会員・総勢約三百名を対象に一時間にわたり講演して戴きました。冒頭、石崎講師は「発想の転換が大事」と、「逆さまの世界地図」をスクリーンに映し、地政学上・アジア・太平洋地域に於ける日本の立ち位置を説明して開発途上国との関りの重要性を訴えました。また、かつて



質疑風景



# 第17回文化遺産めぐり

## 蔵の街川越訪問

今回の文化遺産めぐりは、12月2日に川越市内で実施し、会員8人が参加しました。小江戸と言われる川越は見る所が沢山ありますが、喜多院、川越市立博物館、菓子屋横丁の3か所を巡りました。まず、喜多院ではボランティアガイドの佐藤さんに、喜多院の創設の歴史、江戸城紅葉山等の移築の話等江戸と川越の関係性を詳しく説明いただきました。次に五〇〇羅漢を見学し、参加者は自分の干支の石仏を探すなど楽しいひと時を過ごしました。その後、川越市立博物館に移動し、喜多院に深いゆかりのある「天海大僧正展」を見学しました。佐藤さんの説明にもありましたが、同館においても天海大僧正の長寿歌を紹介してもらいました。「気は長く勤めは堅く 色うすく 食細くして 心広かれ」。また、同館では、なぜ蔵の街ができたかの経緯を詳しく説明いただきました。最後に、時の鐘、菓子屋横丁を散策しました。来年も新たな企画を試みますので、多くの会員の参加をお待ちしております。



## 2017年度 関東ブロック・ユネスコ活動研究会

於・市川市文化会館  
10月14日(土) 15日(日)



2017年度の活動研究会が千葉縣市川市において10月14日に開催されました。会場は山崎製パンクリエーションセンターで講堂、セミナールーム、食堂及び宿泊施設を伴うもので、基調講演、分科会、交流会、翌日の実務担当者セミナーまで一施設内で実施することができました。関東ブロックは東京都、埼玉県、群馬県、栃木県、千葉県、茨城県の1都5県から構成され、今回は市川市の高校生を含めて約400人が参集し、当協からは田村会長他役員、斎藤会員の9名が参加しました。大会テーマは民間ユネスコ運動70周年を記念して、Peace for Tomorrow 及び「平和の心と題し、各協会の活性化と会員増をめぐり、共に語ろう「平和活動」というものでした。

基調講演は「平和をめざす世界遺産・未来遺産」と題して、西村 幸生東京大学教授に世界遺産を審査するイコモスの国内委員長を務めている立場から世界遺産の歴史、課題、最近の傾向などについて詳しく説明して頂きました。

分科会は5つが設けられ、「ユネスコスクール」、「情報発信・広報・会員増」、「キャリアデザインとユネスコ」、「世界遺産・未来遺産」、「平和活動・寺子屋運動」についてテーマ毎に発表があり、発表内容に関する質疑応答が展開されました。埼玉県からは「ユネスコスクール」の中で「ユネスコスクールと平和活動」と題して伊奈町にある国際学院の島田哲弥ESD主任に同校の取り組み状況を発表してもらいました。なお、2018年度は茨城県水戸市で9月に開催されますが、2019年度は埼玉県が当番となり、当協が主管となつて蓮田市で開催予定です。

## 予告 第14回地域文化遺産スタディ 「古河公方の時代とその周辺地域」

日時・平成30年2月25日(日) 14:00~16:00  
場所・白岡市「はびすしらかわ」講師・鷲尾政市先生 現在古河鍛冶町みらい蔵代表、前古河歴史博物館館長 講演内容…なぜ古河公方が誕生したか?その背景、室町、鎌倉幕府による政治体制の変化、関東北部勢力と鎌倉、伊豆を中心とする勢力争い、その歴史的経過と国境に位置する周辺地域との関わりも取り上げます。皆様のご来場をお待ちしています。

# 会員紹介

## 石川 勉

いしかわ つとむ



①蓮田市立蓮田中学校 校長 石川勉  
②埼玉県春日部市出身 主な勤務先岩槻市、春日部市、杉戸町、松伏町、蓮田市  
③蓮田中学校は平成27年2月国際ユネスコスクールに認定されました。その後、蓮田白岡ユネスコ協会方々のご協力により、南極越冬隊長の福地様や元JICA職員の石崎様のご講演を実現することができました。関係各方々に心より御礼申し

①執筆者  
②今までの歩み  
③ユネスコ活動への抱負 (敬称は省略しています)  
上げます。  
今後も蓮田中学校の生徒のために、ご理解とご協力をお願いいたします。

## 久松直樹

ひさまつなおき



①久松直樹(ひさまつなおき) 埼玉県北葛飾郡杉戸町  
②当時仕事でお付き合いのあった田村会長から、蓮田・白岡地方ユネスコ協会の立ち上げにかける思いのお話に感動しました。  
又、協会の趣旨にも賛同したので入会しました。  
現在は家族ともども

神戸市に住んでいる為、会報などで活動を(僭越ながら)見守らせていただいております。  
③自分達の地域社会と歴史を学び誇りを持つことは、ひいては他国の文化尊重出来ると思います。

## 秋葉 清一郎

あきば せいいちろう



①秋葉 清一郎(あきば せいいちろう)  
②生まれも育ちも埼玉県白岡市です。  
③ユネスコ憲章の理念に基づき貴協会が国際社会理解のための活動や地域社会における文化活動として実践されている「国際文化スタディ」、「地域文化遺産スタディ」に副市長

## お詫び

既刊の会員紹介欄におきまして、ご氏名を間違えて記載しておりました。誌上をお借りしてお詫び申し上げますと共に正しいご氏名を記載させて頂きました。  
谷 美恵子様 (会報12号)  
矢上 匡孝様 (会報17号)

# 会員寄稿

## 全国一周 自転車輪行

対馬 更生

私は自転車で日本一周を考えてから2年、実行しています。既に、大宮ー広島、九州一周、下関ー秋田を走りました。今年は、北海道2000kmを走ってきました。今回は北海道走りの一部をお話したい。7月18日。稚内。(ミントの話)この日の行程も、素晴らしい景色の中を天塩町から稚内まで70km快走し、珍しく自転車仲間と幾人か挨拶した。景色は利尻礼文サロベツ国立公園を満喫させるオロロンラインでした。左に日本海、利尻富士、右にサロベツ原野。風力発電の鉄塔が何本も。



とにかく素晴らしい景観。

北海道で一番景色を満喫した走りでした。そして、稚内へ。宿泊先が民宿みんと。そこで、偶然、今日挨拶した輪行仲間と同宿。彼は名古屋からで、一日一四〇km走るとの事。年は65歳。元気です。彼とは話が盛り上がり、お互い日本酒300ccを2本。彼の目的は、来ているの事。お開きの時に「ミント」の話をしました。宿の奥様に「ミント」は造幣局との話。さいたま市の造幣局で売っているミント飴を送る約束をして、後日、送りました。その時に前回の「きずな」に掲載の参加者の声のミント説明を同封しました。宿の奥様から、丁寧な御礼の葉書

(私、ミントが造幣局ということを知り大変驚いてしまいました。更に普段目にする事もないパッケージの「ミント飴」を送ってくださり大変感激しております)が届きました。7月31日。厚岸。(動物が怖い話)霧多布



から厚岸へ。40kmの行程です。距離が短いので楽な一日と考えていた。ところが、雨が途中で降ってきました。そして、走った道(北海道の道)は厳しかった。車が走っていない。道路はアップダウンの連続。そして、原始林の中を走ります。まずは、出てきました。「熊出没、注意。7月7日に親子の熊」の看板が。北キツネがうろうろしています。近くに行っても逃げません。そして、出ました。10m先に角を生やした馬のような大きなエゾシカが道路を横切りました。恐ろしい。動物がこんなに恐ろしいとは!又、びっくりしたのは、厚岸の街中にエゾシカが群れていました。何だこれは。8月6日。襟裳岬。次回(自転車転倒の話)を楽しみに

## 埼玉県ユネスコ連絡協議会理事会

9月27日(水)蓮田市

立図書館において埼玉県ユネスコ連絡協議会の理事会が開催されました。当ユ協の田村会長が2017年度より同協議会の会長を務めることになったことから当地で開催されたものです。当日は県内7ユ協のうち5ユ協が参加しました。議題は9月までの協議会の取り組みを紹介したほか、2019年当ユ協が主管となつて開催される関東ブロックユネスコ活動研究会の日程(10月)や開催場所(蓮田市内)の検討状況を報告し、分科会で取り上げるテーマについて意見交換しました。次回理事会は2018年4月頃開催予定です。



上田県知事表敬訪問

## 武貞先生の慰労兼忘年会の開催

12月17日(日)



当日は会員他17名(武貞先生・中野市長・西山教育長他)参加され武貞先生に謝意と中野市長より激励のお言葉を頂きました。

武貞先生、田村会長他終始和やかな雰囲気の中お開きとなりました。

## 回収についてのお願い

書損じハガキ等



蓮田西新宿、蓮田駅東口、蓮田・白岡郵便局、蓮田図書館他に、回収箱を設置しておりますので、書損じハガキ・プリカ等ご協力をお願い致します。識字教育支援、私達ユネスコ活動に使用させていただきます。(支援先、カンボジア他)



59歳の一年生

## 編集後記

年後半に事業が集中し会報がいつもより遅れました事深くお詫び致します。

あつと云う間の一年、色々な事がありました。来年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。皆様、良い年をお迎えください。

杉原記